

大和町^{ひわだ}桜和田地区の瀬戸^{せとよしはる}善春さんはぶどうのハウス栽培のかたわら、令和2年に希少なイチジクと呼ばれるビオレ・ソリエスを定植。今年の秋から収穫を開始した。

始めたきっかけはJA職員からの提案だ。他の果樹と比べて管理が容易で、完熟果の需要があるが流通量は少ないため高値で売れると説明された。完熟した際に裂果しにくく、耐寒性が強いとされるビオレを導入した。

この品種は樹勢が強いことが特徴。「イチジクは結果枝の節に結果するため、節間が短いのが理想だ。勢いを抑えつつ収穫や剪定が容易に行えるよう、主枝を水平に仕立てる一文字整枝を目指した」と振り返る。耕起したのみで無施肥のほ場に植えたが、枝の伸びは収まらず、全く実が付かない年が続いた。

JAの産直部会を通して出荷を開始し、価格は150円/100g。瀬戸さんは「県内では甘露煮などの食べ方が主流のため、生食用のビオレは売れ行きが不安だった。完売しているのが、毎年安定した収穫量を維持するのが今後の課題だ」と話す。

【記事執筆】 宮城県農業会議

収穫中の瀬戸さん



出荷予定のビオレ・ソリエス。「果実はデリケートなので荷姿は改善の余地あり」と瀬戸さんは語る。



収穫間近のビオレ・ソリエス

